

平成 25 年度 関東甲信越診療放射線技師学術大会

神奈川県放射線管理士部会企画

テーマ：医療被ばく相談 ～放射線診療を安心して受けて頂くために～

福島第 1 原子力発電所事故の後、国民の「放射線」に対する関心が非常に高まっているのは、放射線診療を日常業務とする我々診療放射線技師が誰よりも肌身で感じているところだと思われま

す。また、多くの診療放射線技師の方々は忙しい日常業務に追われ、「撮影しても大丈夫ですか？」という患者の質問に対し、じっくり時間を割いて説明することが難しい環境にあるのが現状だと推測されます。

「医療被ばく相談」を行う上で、傾聴や共感といった高度なカウンセリング技術がすべての相談者に対して必要なのではないかとも考えますが、かといって「大丈夫ですよ」の一言だけでは、相談者の疑問に答えたことにはならないのではないのでしょうか。

そこで今回、各都県の「医療被ばく相談員」の協力を得て、医療被ばくについての代表的な質問に対する回答のポイントをグループワーク形式で考え、自分たちにとって必要な知識などを再認識することで日常業務に生かして欲しいと思い、下記のプログラムを行う事に致しました。

短い時間では有りますが有意義なものにしたいと考えていますので、皆様奮ってご参加ください。

開会挨拶

神奈川県放射線管理士部会 部会長 濱田 順爾

プログラム 1

14:30～14:50 「放射線検査において患者が求めているものとは・・・」

講師 佐藤 寛之（聖マリアンナ医科大学付属病院）

プログラム 2

14:50～15:10 「被ばく相談に必要な基礎知識（影響と必要情報）」

講師 佐藤 洋一（甲府共立病院）

プログラム 3 グループ実習（医療被ばく相談について）

国民に、エビデンスのとれた国際的に受け入れられている放射線の知識を、正しく認識してもらい、自分のなかで整理し、自分自身の考えで放射線を正しく怖がることができるようになってもらいたい。その為にはまず、人体に放射線を浴びせている我々放射線技師が、どのようなことをポイントとして患者さんに伝えるべきなのかということを主眼に、グループ討議してみたいと思います。

15:10～15:30（グループ討議）

15:30～15:50（発表）

※各県の「医療被ばく相談員」がアドバイザーとなり各グループに配置。

※設問は各グループ 1 問（それぞれ違う設問）

グループごとに設問について討議してもらい、設問内容に対しての「回答のポイント」を簡単に発表してもらおう。発表者は各グループの被ばく相談員。

閉会の挨拶

神奈川県放射線管理士部会 副部会長 吉田 篤史